

稲・大豆作情報 (NO. 2)

1. 水稲作況情報田の生育概況(7月9日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/16 17.6株/m ²	本 年	33.5	203	7.2	39.2	梅雨入りを迎え、曇天が続いている。草丈、葉齢共に、平年よりもやや低く推移している。
		平 年	36.0	181	7.2	39.3	
		平年比	(93)	(112)	(+0)	(100)	
さがびより 小城市芦刈町	6/20 17.7株/m ²	本 年	34.0	152	6.3	35.0	暖冬のため越冬したスクミリンゴガイが多く、深水となった一部の圃場では食害も確認されている。
		平 年	34.1	178	7.6	41.5	
		平年比	(100)	(85)	(-1.3)	(84)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/28 20.1株/m ²	本 年	22.3	88	5.5	未測定	
		平 年	24.0	79	5.9		
		平年比	(93)	(112)	(-0.3)		

注1) 各品種 前作：麦、前前作：水稲。

注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる。

2. 水稲管理

○水管理(7月9日～7月16日)～間断かん水の時期となりました～

- ・除草剤施用後湛水期間を過ぎた圃場は、溜め水とせず土壤に酸素を供給するためすみやかに間断かん水に移行し、稲体の健全化を図る。また、まだガス湧きが続いている圃場は落水→浅水の継続とともにガスの有無を定期的を確認し、土壤の健全化も図る。
- ・スクミリンゴガイが多く確認された場合は、浅水にして貝の活動抑制を行うと共に薬剤防除を実施する。

○除草剤 ～初期剤散布の遅れた圃場は特に雑草の生育に注意を～

- ・雑草の生育(葉齢)に注意し、中後期除草剤による早めの対策を講じる。

○中間追肥 ～ヒノヒカリ、ヒヨクモチ～

- ・元肥を即効性の肥料(BB480等)を使用する場合は次の通り。
「ヒノヒカリ」：7月5～10日頃に、窒素成分で2kg/10a(BB480で15kg/10a)程度
「ヒヨクモチ」：7月15日頃に、窒素成分で1.6～2.1kg/10a(BB480で12～15kg/10a)程度

3. 大豆管理 ～圃場条件が整い次第播種を～

今後も曇天が続く見込みで、梅雨明けはまだ予測できていません。今後の気象状況に留意しながら、圃場状況が整い次第速やかに播種作業を行いましょう。

○耕起

- ・荒起は圃場が乾くのを待ち、播種前日～当日に行う。

○播種

- ・種子消毒：紫斑病や腐敗防止および発芽率の向上のため、必ず実施する。
- ・播種量：

播種日	栽植本数 m ² あたり	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月6日～15日	14本	75×20×2	4.0

・播種深度

土壤水分が高い場合や播種後2～3日以内に降雨が予想される時→2cm程度の浅め 鎮圧はしない

- ・除草剤：播種直後に土壤処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に近年問題となっているホオズキの発生が多い圃場では、「ラクサー乳剤」が効果的である。散布時は、隣接圃場の水稲ヘドリフト防止のため風速と風向き等に注意し、風が強い日には散布しない。またアサガオについては、効果的な薬剤がなく多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、見つけ次第手で抜き取る。

令和元年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

佐城農業改良普及センター

